

谷川士清ゆかりの人々 (研究部会)

谷川士清顕彰保存会編の「^{ことすが}谷川士清をめぐる人々」から、谷川士清ゆかりのある主な人々を探ってみた。

父の義章(医号・順端)は、青年時に儒学を学び士清に強い影響を与えていた。また、父義章は津藩第七代藩主となる藤堂高朗の母の重病を癒し、出産時に医事した機縁で、士清は、藩主高朗との親密な交友が出来た。師と仰ぐ人に、松岡玄達(儒学・医学・本草学の大家)・玉木葦齋・若林強齋・松岡仲良・正親町公道・有栖川宮職仁親王・浩天和尚等に師事している。

学友・交友としては、藤堂高朗(津第七代藩主)・藤堂高文(七代藩主の弟)・多羅尾光信(藤堂藩士・三千石)・巍堂(彰見寺九世住持)・湛龍(光徳寺八世住持)・竹内式部(幕府から重追放の処分を受け、流刑途上三宅島で歿す)・本居宣長・椿靱負(伊勢神宮禰宜)・平賀源内等と交流し、夫々の人から学び交流し士清は大きく影響した。

士清の門人は41人が記されているが、その他多勢の門人があったと思われる。その内主な人は、最初は鈴木正意(士清27才)・上田圖書助・松本主禮(伊勢神宮禰宜)・石井仁五兵衛(松阪市驛部田・大庄屋で森蔭社へ1,700両を寄進している)・宇佐公綏(宇佐八幡宮大宮司)・大河内重平(雲出長常の神明社の社家)・七里政要(津藩士700石)・服部保祐(津藩士600石)・長田惟律(津藩士800石)・中川藏人政恩(津藩士1,500石)・三井諤(勢和村丹生・医家にして画よくし士清画像を残す)・飯田元親(橘守部の父)・唐崎信徳(安芸国磯宮八幡祠官・自刃する)・頼惟清(頼山陽の祖父)・荒木田尚賢(蓬萊尚賢と言い、士清の長女八十子を娶る。)以上家族・師・学友・交友・門人達はその当時大活躍したが、残念ながら津藩から処分を受け士清の学統は潰滅されたのである。しかし、明治時代になり名誉が回復され、その後士清の顕彰活動が行われ、私達の『^{ことすが}谷川士清の会』が津市、三重県から全国へ顕彰活動を発信している。(森 晋)



谷川士清
(1709~1776)

谷川士清先生の資料調査

平成12年度は「谷川家処方書解説」および「谷川士清門弟について」等を中心に行ないました。

「谷川家処方書」は、谷川家に伝わる医学関係の書物で、治療や薬の調合の方法その他を記録した書物です。オランダから伝来した医薬についても書かれており、難解なところもあるので、三ツ村先生が解説され、会員に説明していただくという形式となりました。

最初は「キヤマンハ南天竺セイロンノ産則仏子ハンノ処也…」という文章で始まり、オランダ用語についての説明です。これらの知識がどのように治療が応用されたかは不明ですが、「なぜ解き」のおもしろさもあり、参加者一同楽しく頭をひねりました。この項の終わりには、「右筆記スル処ハ安永六丁酉年二月十日夜吉雄先生ニ桑名ノ駅ニ邂逅ス同三月廿五日土山ノ駅ニ再ヒ邂逅シテ所聞ヲ書ス」とあり、1777年(士清先生の没後)書かれたものです。処方書の解説を通じて、谷川家の医師たちの「新しい医学知識を吸収しよう」とする熱意を感じることができました。

「谷川士清先生に関する資料」については三ツ村先生、また「先生の門弟」については森副代表に一覧表を作成していただきました。これらの一覧表に基づき、今後の調査活動をおこなっていきたいと思います。

(塚澤 洋)